

花咲かだより

題字 森 キヨさん

社会福祉法人 緑寿会

特別養護老人ホーム 山科苑

デイサービスセンター 山科苑

居宅介護支援センター 山科苑

京都市山科区大塚野溝町 3 番地

TEL (075) 593 - 0800

ryokuju@agate.plala.or.jp

<http://www3.plala.or.jp/ryokuju/>



ようこそ! 山科苑へ



Blog
好評Up中!



作品 犬丸 丈子さん

ご挨拶

施設長 吉澤 英樹

春寒の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます

日頃より当法人運営にご支援、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。
新しい年がスタートいたしました。今年は辰年です。この辰年の特徴は
「正義感」と「信用」だそうです。正義感・信用という言葉はいろいろな
事件が多いこの世の中、本当に特徴として表れるのでしょうか？表れて欲
しいものです。また、昇り龍とも言いますので上昇の年となることを祈り
ます。そんな中、介護報酬改定の概要が示されました。いきなり下り龍で
すが、まあ・・・それ以上の事は、触れないでおきましょう。

私たち社会福祉法人は、社会や地域において福祉の充実・発展に寄与することを使命としています。制度ビジネスと言われておりますが、この事業を安定的に継続できるように、常にご利用者の立場にたつて安心・安全なサービスの提供、生活環境やケアの環境を整備し、法人の基本指針の中にあります『利用してよかった』とと思っていただける施設』を常に念頭におき行動していきたいと思っています。

本年も、元旦祝賀会に始まり皆さんお元氣にお過ごしいただいております。今年も一年、職員一同よろしくお願いいたします。

余談ですが、

京都市東山区本町に、「瀧尾神社」という神社があります。ここには、巨大な木彫りの龍が祭られており全長は8 mあるそうです。ぜひ、この辰年に訪れてみてください。



瀧聖神社(たきせいじや)は、京都府京都市東山区の神社。
創始年代は不詳が、源盛盛衰記にその名が見える。天平四年十
月に、豊臣秀吉が平等大願寺建立したのに伴い、現地に遷座した。
現在の本殿、拝殿、手水舎、給与屋、下村家、現在の大丸瓦葺きの
土により、江戸後期の天保十一年に改築・造立された。
拝殿奥の全長八坪と云われ、彩色の木彫りの龍がバースポツ
トとして知られる。その壁などの余り、当時の人々の間では、夜な夜
な川の水を飲みに行っている、悪く寝ないとい噂された。そのため
拝殿の土を網袋に付けて龍を閉じ込め、人々の気持ちよすためにと
いう。

京都市東山区本町十二丁目七八・拝観時間 自由
定休日 なし・拝観料 無料・駐車場 あり

ちよいつと日記

先般、高知に行ってきました。

ずっと憧れていました四十十川のキャンプ場で、ソロキャンプをしてきました。平日であつたので、キャンプ場も私一人でしたが、夕方になると一組のファミリーがキャンプ場にやってきました。なんとなく一人では心細いのでホツとしました。

晩御飯を食べ終わり、たき火をしながら飲んでいますとファミリーが帰り支度をしはじめました。帰り際に「夫婦と一時間ほど話をしました」が、近くに住んでいてキャンプ場で晩御飯だけを食べに来たとのことでした。寂しい素振りを見せずに、手を振って別れました。ソロキャンプといえども、周りに誰もいないのはあまりにも寂しすぎました。ビールとたき火の木が無くなった時点で、「本日終了」。テントに入り就寝しました。翌朝は、四万十川の源流を訪問しました。思ったよりも急勾配な山道を二十分ほど歩き到着しました。これが夢にまで見た四万十川の源流か……!……!と思ひ、何枚も写真を撮りペットボトルに水を注ぎました。もう一泊する予定でしたが、あまりにも寂しく二日目は高知市内のホテルに泊まりました。(笑)

今回の教訓は、

「やっぱりキャンプはファミリーで、たまに行くなら一泊ソロキャン」。



ソロテント



沈下橋



四万十川源流



DS

デイサービスセンター

皆様への感謝の気持ちを込めて…

職員の出し物による

クリスマス会を開催しました!



紅白歌合戦を先取りして、マルマルモリモリ! ランドセルを背負っての熱演と一緒に踊られたご利用者もおられました。



箱の中の女性が消えてしまうマジック! 「どうやって、消えたかわからへん…」と1週間たっても考えてくださっているご利用者もおられました。(タネは秘密です…)

山科苑のクリスマス会は恒例となりました、皆様への1年の感謝を込めて、職員による芸を見ていただきました。

何週間も前から練習を重ね、緊張を乗り越え、汗をかきかき披露させていただきましたが、如何でしたでしょうか…?



ご存知、野球拳! 旦那と芸子さんという設定で、二人の露な姿にハラハラドキドキ、皆様大笑いで手拍子して下さいました。



派手な衣装で、フラダンスと山本リンダの“狙い撃ち”を披露。お腹抱えて笑っていただきました。

クリスマスソングの生演奏! 小ネタを挟んだ演奏に、笑いと手拍子。ノリノリに乗って下さいました。



いっぱい楽しんで、思いっきり笑って、元気になって

今年度はお誕生日のお祝いに、ささやかではございますがカードを贈らせていただいております。皆様のその瞬間の素敵なお写真と共に、拙い文章でメッセージを書かせていただいております。山科苑をご利用いただいております年月に違いはありますし生きてこられた歴史や今現在の暮らしなどそれぞれに違いはおありますが、書かせていただく時にはじっくりお写真を拝見しお顔を思い浮かべ、教えていただいた様々なことを考えながら書かせていただいております。そんな中毎回思うことは、皆様なんて日々を一生懸命頑張っておられるのだろう! ということなんです。その方の笑い声が耳に響き、笑顔が浮かび、お話しくださったことが思い出され、そして最後にはいつも自己反省しているんです…。皆様がどれだけ今まで必死に生きてこられたか、どれだけ私達が想像もつかない経験をしてこられたか、どれだけ毎日頑張っておられるか、そんなことは億尾にも出されず笑顔で接して下さるお姿に頭が下がるばかりなんです。いつも笑っていたけように頑張らねばと前向きにさせて下さる皆様に感謝の気持ちを忘れずに頑張ります。



密着24時? ナースな1日

ナースのお仕事を
ちょっぴり紹介!
医務室 だより

特別養護老人ホーム山科苑看護師に密着しました。特
養ナースのお仕事っていったいどんなんでしょうか?

10:30



午前中の様子やバイタルなどを業務日誌へ記録していきます。

12:00



昼食の食事介助をサポート。飲み込みやムセ込みがないかチェックします。



昼食時に、薬を配り、しっかりと服用できているか確認します。



午後の巡回。午前、午後を2回周り、健康チェック、バイタル測定を行います。

14:00



入浴時に皮膚状態のチェックや処置を行います。着脱サポートも行っています。



訪問皮膚科の往診です。ドクターの処置のサポートやご利用者の様子を伝えます。ベッドサイドへも伺い処置を行います。



9:30



内服薬のチェックを行い、誤配や誤服薬のないようにしています。



9:00



朝の申し送りです。各部署集まり、夜間のご利用者様子をチェックします。

15:00



経管栄養の方の食事前に、痰吸引を行い、不快なく、安心して、食事がとれるようにしています。

8:45

経管栄養の方のお食事準備です。出勤です。1日のスタートです。



今日も一日お疲れ様でした。退勤です。
(でもオンコールが(泣))

医療的ケア研修(痰吸引)の研修に向けて、資料をチェックしています。

16:00



8:20



8:15



18:30



山科苑 看護師

介護職員等による
痰吸引研修

介護職員も痰吸引ができるようになりました。しかし、そのためには、14時間の医療的な研修を、施設内で実施しなくてはなりません。

ご利用者の、安全と安心を守るために、我々ナースと介護職員が、しっかりと連携を図って行きたいと、思っています。

研修中は、笑いもありますが、ひとり一人真剣に説明を聞いています。実技では、実際に職員同士で吸引を行い、痰がらみの苦しさなど体験しました。

介護職員等による
痰吸引研修

居宅介護支援センターだより



サービス担当者会議で、スマートフォンやデジタルカメラの画像で利用者さんの傷の状態を見せていただいたり、ノートパソコンでその場で記録をしたりという場面に出くわすことがあります。特に、画像では小さい画面ながらも傷が徐々に良くなっていく変遷がひと目でよくわかりました。退院後、リハビリテーションが順調に進み自宅療養が安定してきたこともあって、ご本人やご家族、私たち担当者一同で画像を覗き込みながら「良くなってきているね〜」「今度はこれを目標に」などどうれしい気持ちになった会議となりました。また、経管栄養の方の時には退院後に円滑にサービスがご利用いただけるようにこと許可をもらったうえで注入時の様子を撮らせていただき、後日スタッフ間で情報共有を行ったことがありました。社会人になりたての頃、日誌や申請書類などほとんどが手書きだったことを考えると隔世の感があります。山科苑でもこの『花咲かだより』だけでなくブログでも苑の様子をお伝えできるようになりましたし、時々お邪魔している勉強会の先生は関心のある方々が自由に閲覧できるようにとホームページ上で定期的に『マガジン』を発行され、積極的に情報発信をされています。

私自身も今ではパソコンがなければ仕事が進まないようになりました(壊れたらそれこそパニックです!)が、まだまだ使いこなすにはほど遠く…。昨年、あまりよく考えずに携帯電話をスマートフォンに買い換えたのですが、もうじき使えなくなる古い機種からいきなり最新機種を手にしてしまったため未だ使いこなせておらず、宝の持ち腐れ状態です。自宅で使っているノートパソコンもいつしか世代が古くなってしまいあちこちに支障が…。まずは日頃よりこまめに環境整備をすることからなのかも。

ケアマネジャー 中村 里美

それこそパニック!?

“多事想論” 副施設長より

ある利用者が毎日編み物をしている。その姿はとても自然で、ゆっくりと、でも確かな手さばきで編んでいる。腹巻きやネックマフラーなど誰にともお世話になっている職員にあげようとする。その照れるような笑顔には人を癒す力が溢れ出る。

私たちの介護の世界では人の喜びを喜びとする援助のつもりが、今回の介護報酬改正ではないがあらゆる規制の中で日々追われる業務の世界に追いやられている。先日横浜で“援助と業務”についての演題でスピリチュアルケアの第一人者であるノートルダム女子大学院特任教授の村田久行氏と明治学院大学社会学部教授の浅川達人氏との対談を聴く機会があった。対人援助や緩和医療の臨床に関わる村田理論に対して全くジャンルを異にする社会学の立場から浅川氏は援助(ケア)の世界を問い直し、等価交換という概念から今日の援助の場を紐解く。我々の援助が業務として、省令・通達、通知などで国の定める必要な時間や人員、手順等の最低基準とその行為を証明する記録をもって成し遂げられる世界。援助がクライアントの為なのか、行政の為なのか、対人援助をサービスとして対価を想定した援助は当然に権利と義務を双方が負うことになる。そしてその等価交換の営みとして援助を捉える限り、専門職はその専門性を発揮するに応じて自らの選択を狭め、抜け道のないスピリチュアルな苦しみに陥る・・・と。

浅川氏は話を進めて、等価交換の世界からの脱却の糸口としてレヴィストロースの「贈与と返礼の無限の往還」という人間社会の中で本来構築されていた社会構造に立ち戻ることを説く。心からの「ありがとう」は何物をも求めることもなく自然の流れの中でほとぼしることばと笑顔。その笑顔には等価交換を超えて我を忘れて心ふりむく心の発動がある。その贈与と返礼の無限の往還を発動させるのは実は強い専門性よりも弱い専門性の方が働きやすいのだと。ただ素直にその人に寄り添う姿と専門職としての論理的必然性の中で寄り添うことの堅苦しさ。弱い専門性という誤解を生むかもしれないが、専門的な技術以前に、ただその人を思いやる気持ちと小さな勇気と行動につられて人は元気をもらい、元気を確かなものにする。同時に私たち援助者はただその人の笑顔に力をもらい、自分を成長させてもらったその感謝のしるしとして援助を提供し続ける。世話を受けていることへの感謝の気持ちと世話する人の笑顔の双方の笑みの往還がまさに利用者の手の中に編み続けられているのかもしれない。



副施設長 岸田 光彦

「贈与と返礼の無限の往還」



ボランティア紹介

イベント&交流会

- ・ひまわり合唱団コンサート 鑑賞
- ・バプテスト教会 訪問
- ・ピッコリーナリコーダー演奏会

サークル&クラブ&サポート

- ・歌声サークル 大西 いつ子 様
- ・生け花クラブ 松井 智津甫 様
- ・ちぎり絵クラブ 橋本 和子 様
- ・デイサービス
澤 信子 様、鈴木 啓子 様
- ・入浴サポート 石野 義子 様

寄贈

- ・お米 25kg 西岡 智登志 様
- ・そうめん 4.5kg 荒木 静枝 様

皆様のご芳情に厚くお礼申し上げます。
今後とも山科苑へのご理解、ご協力を心より
お願い申し上げます。 山科苑 施設長

ひまわり合唱団



バプテスト教会訪問



ピッコリーナ訪問



行事予定

三月 ひな祭り喫茶

四月 花見行事

五月 外食会

六月 創立記念大運動会



実習生受け入れ

(10月～2月)

- ・ニチイ学館 ヘルパー2級 実習 20名
- ・京都福祉専門学校 II 区分-1 2名
I 区分 2名
- ・京都保育福祉専門学院 I 区分 2名
- ・龍谷大学 社会福祉士 2名

編集後記

表紙は、久しぶりに
犬丸氏のちぎり絵を
飾らせてもらいまし
た。土まですべてそ
ろい、いざならべて見る
と壮観です。何より、
12年間欠かすことな
く作品を作り続ける
ことに尊敬します。◆
私ごとですが、祇園祭
りの御輿を担いでい
ます。それが去年でち
ようど、12年目とな
り、やり始めたこと
を続けるといったこ
ろでは何か相通じる
ものがあるように思
います。(自分だけ
ですが)◆ショートス
テ

イのご利用者で、利
用当初は、環境が変
わるため夜も寝ら
れず、2泊3日のほ
とんどを起きてお
られました。スタッ
フも、はじめ、利用
は無理ではと思い
ましたが、めげずに
何度も利用をして
もらい、幾度となく
声かけを行いました。
今では、そのご
利用者は夜はしつ
かりと寝られるよ
うになり、なんと帰
りたくないとおつ
しやるようになり
ました。まさに、継
続は力なり。あきら
めない大切さを学
びました。

■相談・苦情受付連絡先

京都市山科区大塚野溝町3番地

緑寿会 山科苑

(075) 593・0800

■苦情解決責任者

施設長 吉澤 英樹

■相談・苦情受付窓口

副施設長 岸田 光彦

『花咲かだより』

発行所／社会福祉法人 緑寿会

特別養護老人ホーム デイサービスセンター

居宅介護支援センター

発行担当／山科苑広報委員会

広報委員／中村里美 安富友規 饗庭恵

中谷博己